

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_評価マニュアル(2016年改訂) 4.住宅性能評価等に関する事項(第7章)7-2-7-2016 (使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋瑞穂区師長町共同住宅 新築工事	階数	地下1階/地上6階
建設地	名古屋瑞穂区師長町10番1	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	397 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年4月 予定	評価の実施日	2022年10月3日
敷地面積	4,017 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,827 m <sup>2</sup>	確認日	2022年10月3日
延床面積	8,942 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE1.3** ★★★★★☆

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	62%
③上記+②以外の	62%
④上記+	62%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 自然環境に配慮し、周辺地域と調和する空間を提供できるように建物の快適性や安全性などの品質や性能を高める計画とした。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 全面的にF☆☆☆☆建材を採用し、シックハウス対策に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 住宅性能評価の劣化対策等級3(取得予定)など、耐久性に優れた建物とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 道路沿いには可能な限り緑地を設け、周辺地域の良好な住環境の形成に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 住宅性能評価基準 断熱等級5、ZEH-M Orientedを取得予定。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ODP=0.01未満の発泡剤を用いた断熱材を使用し、地球温暖化抑制に配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物周囲に、圧迫感を与えないよう配慮した。また、ゴミ置場を設置し廃棄物負荷抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市瑞穂区師長町共同住宅 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.2</b>
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.7</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



#### 2. 自然共生

評価点 = 1.3



#### 3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。